



## 團體設立経緯

私たちメンバー全員、普段は普通に仕事をしているその辺にいるオヤジです。メンバーのうち2名が我が子と共に畑を開墾することからスタートしたプロジェクトです。開墾という「仕事」が子どもの創造力を掻き立てるということを感じていました。そんなとき、現代表者である脇本から、馬見塚珠生さん(親と子のこころのエンパワメント研究所代表)の呼びかけで、「子どもの幸せプロジェクト(現役の父親たちが次世代の親となる若者や子どもたちの育成に貢献するきっかけを作るプロジェクト)」に関わっているので、協力してほしいとの要請がありました。まずは、「キックオフ会」という名の「飲み会」を開き、ものづくり素人のオヤジと子どもだけで秘密基地をつくることから始めることにしました。秘密基地をつくるための敷地の草刈りに皆で共に汗を流しました。ものづくりという「無形の価値=経験」を通じて、父親同士がいつの間にか自然に交流していく姿を垣間見たことで、「ものづくり」をツールとして地域になんらかの影響を落とせるのではと皆で話し合い、ダッズ村プロジェクトとして活動を開始しました。

## 地域概要

京都府城陽市青谷地区は城陽市の南端に位置し、京都府下第一を誇る梅林である青谷梅林や宇治茶の産地として有名です。古くは「青谷村」と呼ばれていましたが、昭和26年城陽町(市)に編入されました。東には低い山々が、西には木津川が流れ、梅林や茶畠が風景をつくる風光明媚な地域되었습니다。

しかし、近年、新たなバイパス道路や工業団地建設による工場誘致により、自然環境の変化、宅地開発による郊外化の波が押し寄せてきています。更に追い打ちをかけるように、青谷梅林の後継者不足や高齢化に伴う休耕田の増加などの課題が持ち上がっています。ダッズ村プロジェクトでは、京都市や宇治市のような観光資源や名産品を青谷地域の「誇り」とは捉えず、淡々と営まれてきたこの地域の先人たちの「日々の生活」が「誇り」とあります。その「日々の生活」が形づくってきたのが、青谷の風景です。今、まさにその風景が崩れようとしている中で、新たな「ダッズ村」という風景をつくる為に「日々の生活」や「社会の在り方」を見直しています。

## 活動に至った理由や背景

現代社会は、ワンストップサービス化や人口減少等により「お客様体質」の親や子どもが増え、「学校」「幼稚園」「保育所」を含む「社会全体」がサービス業化しつつあり、思考停止状態でも物事が動く「便利な世の中」になりつつあると考えます。しかし、この状況を誰もが疑問に感じてもいます。我々、ダッズ村プロジェクトのメンバーは、自らが子育てに関わるようになり話し合う中で、「お客様化」に疑問を持ち始めました。子どもの将来を考えると「お客様化」しつつある自分たち大人に育てられた子どももやはり、自ら考える力のない人間に成長するのでは、という不安を感じるようになりました。小さいながらも「一から自らつくる」ことで「自らが責任を負う」という「経験」を経て、自ら考え、行動できるようになるのではないでしょうか。その手法として、「原理原則のものづくり」が最適な方法だという結論を導き出しました。昨今、呼ばれている「イクメン」や「父親の子育て参加」や「ワークライフバランス」という言葉に寄り添う活動ではなく、まずは親である自分たちを「自ら育て直す」という思いから活動を開始しています。

## 活動内容と成果

2015年8月30日  
2号館環境整備01

昨年度から続く綾喜ハウス1号館の床張り工事が、この日によくやく終了し、綾喜ハウス2号館の環境整備を行いました。2号館にする予定の納屋は長年、茶農家である地主が農業用の資材や廃棄物を保管しており、原形がよくわからない状態でした。また、湿気防止の為に敷いた農業用ビニルシートのため、地面は常にジメジメとして劣悪な環境でした。そこで、室内の実測や現状調査をする為、内部の整理及び保管物の処分等から作業を開始しました。

2015年9月3日  
2号館前草刈り

外部に関しても雑草が生い茂っており、改修工事には困難な状況にありました。そこで、建物廻りに生い茂る草を刈り、置かれていた不用なものをひとつづつ運び出し処分しました。

2015年9月13日～9月15日  
2号館環境整備02

●9月13日(日)

最年少メンバーたくちゃんが、綾喜ハウス1号館の道具の採寸に来てくれました。少しづつ各メンバーの得意技やプロの技を利用して、余裕や幅が生まれてきました。

●9月14日～15日

大きな資材や保管物は8月の段階で全て外に出すことが出来ましたが、細かなゴミの撤去や、納屋内全面に敷かれていた農業用のビニルシートをめくる作業を行いました。

長年敷かれていた為に上からかぶさっている土も腐り、ひどい環境の中での作業は精神的にも体力的にも集中力が続きませんでした。しかし、この3日間の頑張りで、土のう約30袋にもなる作業が終了し、納屋内もスッキリとし、ようやく先が見えてきました。

2015年9月20日  
ダッズ村敷地内環境整備

周辺の環境が変わり、敷地内が丸見えになってしまったため敷地内の整理を行いました。知らぬ間に廃材やゴミがあちこちに散在しており、反省しながら掃除を行いました。

2015年10月11日／10月18日  
2号館 碎石運び＆碎石敷き

●10月11日

綾喜ハウス2号館の「床を土間にしよう！」と、補強を兼ねたコンクリートを床全面に打設することになりました。

まず、ジメジメとした柔らかい地面を碎石で敷き固める作業から開始しました。プロの現場では、綾喜ハウス2号館程度の規模(40m<sup>2</sup>程度)であれば、重機等を使用して数時間で終了する作業ですが、ここでもやはり手作業ですので、半日掛けて半分行くか行かないかのスピードとなります。スコップで碎石を一輪車に積めて運ぶ作業は、簡単そうに思えて結構重労働になります。

●10月18日

ようやく全面に碎石敷を終え、いよいよ子どもたちの出番です！たまたま、消防団の倉庫に眠っていた「タコ」をメンバーが発見し、ダッズ村へ持つて来てくれました。子どもたちは初めて見る道具と初めて行う作業に興奮状態で、疲れきった大人をよそに大きな掛け声で転圧作業を進めてくれました。碎石敷で気持ちが萎えていた大人たちは、子どもたちのあまりの元気さに負けて、転圧作業を半日で終えることができました。



2015年11月7日  
土台腐朽部分改修工事01

碎石の転圧も終え、地面も安定し作業環境も整った所で、腐朽が激しい土台を除去し始めました。土台は近い将来再び腐朽を繰り返してしまいますので、原因を調査しました。慎重に調査した結果、地盤をかさ上げしている隣地の側溝の継ぎ目のモルタルが劣化して、そこから雨水が侵入していると考えました。

その後、腐朽している全ての土台を取り除き、北側部分の柱が全て浮いている状態であるにもかかわらず建物がそのまま建っていることに気付き、慌てて筋交いを入れ、宙に浮いている柱の下に補強を行いました。詳しくは分かりませんが、建物がバランスを保っているのは確かです。最後に、雨水が侵入しないように、怪しい部分をモルタルで補修して終了です。ダッズ村では、子どもだけではなく大人も本気で遊んでいます！しかしながら、このなぜ建っているのかわからない納屋を見て、改めて改修工事には知識があって考えることができ、木を読んで手道具を使いこなせる、大工さんの存在が必要になると、メンバー一同考えさせられる一日となりました。



2015年11月15日  
コンクリート土間部分材料買い出し  
&柱腐朽部分除去作業

土台腐朽部分除去を終え、次の作業は土間部分の工事です。まずは、ホームセンターで土間用のメッシュ筋を購入し、土間コンクリート打設に向けて気持ちも高ぶつてきました。更にこの日は、午後も作業を続行し、柱の



腐朽部分の除去を行い、切断した柱の下にコンクリートブロックを挿入し、補強を行いました。切れないので鋸を素人が使う為に作業に苦戦し、「道具」の重要性を改めて認識しました。

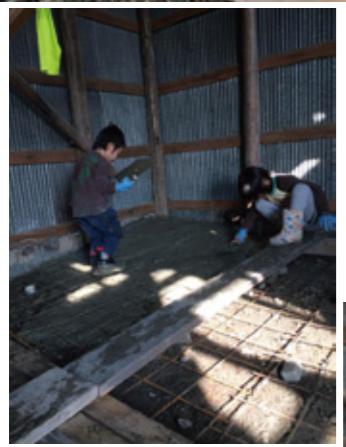
2015年11月28日  
レベル出し

いくら素人とはいって、ある程度の水平は出さないと…。ということで、綾喜ハウス1号館でお世話になった大阪工業技術専門学校大工技能学科よりレベルをお借りし、水平の確認を行いました。この作業をしっかりとやつておくことで水平な土間を打設することができます。

2015年11月29日  
山城南子育てフェスタ

「子どもの幸せプロジェクト」の活動で知り合った、木津川市の方からのお誘いで、山城南子育てフェスタにてダッズ村プロジェクトの今までの活動を発表させて頂きました。たくさんの方が聞きに来てください、我々の活動に興味を示してくださいの方もおられ、是非何かの機会に協働しましょうという声も掛けていただきました。これまで、地固めとして「村」の整備に専念していましたが、今回のようなつながりを広げることで色々な展開が生まれることを学びました。





**2015年12月13日**  
**ゼロからコンクリートをつくってみよう!**  
**～コンクリートで泥遊び!?～**

子どもたちと共にコンクリート作業を行いました。普段、よく目についているはずのコンクリートですが、実はどのように造られているかは、子どもも大人も知らない人が多かったです。

この日のOPEN DAYでは、下記について遊びながら学んでもらいました。

**1. 身近なコンクリートを考えよう!!**

側溝や家の基礎やダム？(身近ではありませんが)橋などという答えが返っていました。

**2. コンクリートはどこから出来ている?**

これは、やはり誰も答えられませんでしたが、「水!」「土!」「砂!」など惜しいところまではたどりつく辺り、子どもの創造力の豊かさを感じられる一コマとなりました。

**3. 汚れても良い服に着替えよう!**

長靴に履き替えよう！

コンクリートをつくろう！

コンクリートを運んでみよう！

コンクリートをならしてみよう！

をテーマに子どもたちと共にセメント・砂・水・碎石を適量で混ぜ合わせ、コンクリートを練っては、運び、均すという作業を1日掛けて行いました。子どもたちはこのドロドロとした液体があのコンクリートの塊に生まれ変わることがにわかに信じがたいようで、不思議な面持ちで眺めていましたが、慣れてくると、こちらが心配になるくらい、コンクリートに足を突っ込む、顔から倒れるのでは？という態勢で均し作業をするなど、いつものように張り切ってくれました！

最後は、ちびっ子監督の仕切りで、おとうさん、おかあさんが、生コンを運ぶという成長ぶりを見せてくれました！



**2016年2月14日**  
**コンクリート打ち下準備01**

コンクリート打ちの下準備。床を見ると水溜まり発見。外側の側溝の継ぎ目からの侵入と判明。止める道具もありませんのでコンビニ袋と石を詰めて応急処置。そしてひたすらスコップで水をくさい、メッシュ筋を配置する作業です。

実は、前回人力でコンクリートを作り流し込みましたが、時間・労力・費用を考えると、続きはプロの手を借りて完成させることとしました。以前は頑なに自分たちだけでというスタンスでしたが、木や土など材料を持って来てくださっていた各業者さんから、「これはおもしろい！！頑張りや！」という言葉を頂いていたこともあり、輪を広げる為にもあえてプロの職人の手も借りよう！！ということとなりました。

色々な考え方や意見もあると思いますが、我々自身は、柔軟性も出てきて少しこれが成長できたかなと考えております。

**2016年2月20日**  
**コンクリート打ち下準備02**

この日は天気がよければミキサー車に来てもらい土間作りの予定でしたが、天気予報が雨とのことで延期してもらい下準備の続きだけを行いました。メッシュ筋の下にコンクリートブロックを敷いていき、後はコンクリートを流し込むだけです！

**2016年2月26日**  
**コンクリート打ち**

今回は生コン車とポンプ車を呼び、一気に均しました！手仕事では1日がかりで1m四方の土間をつくるのがやつとで、それも重労働、ほんとにできるか心配になっていましたが、思い切って、機械の力を借りて、何とか土間打ち終了です！

続いている、プロの大工さんからも「ほんまにあんたらだけで、できるか？大丈夫か？」と言われている、建物本体の屋根と外部柱の改修に着手です！！！



**今後の予定**

活動開始後3年が経過し、この間に各メンバーの仕事・プライベートな状況も大きく変化し、更には敷地周辺の状況も変化してきました。3年という月日で人・地域の環境を取り巻く状況がこうも大きく変化するのか？と、大袈裟ですが「人生」についても考えさせられました。その中でも当初の目的を見失わず、子どもたちの可能性の為に、柔軟性を持って様々なことに取り組めた事は、我々にとっては大きな成長だと考えます。また、ダッズ村設立時からの目標である父親の子育て参加については、母親目線からはまだまだかもしれません、ダッズ村内においては、普段の会話の中に「子どもの学び」や「子育て論」が自然と出てくるようになってきています。そして、ハード面においては、まだまだ未完成ながら改修というプロでも難しいことに取り組み、「やればできる！」という力強い考え方を手に入れ、更には「プロの手を借りずに」から、「プロの知恵を借りる」という思考に変化してきたことは、今後、ダッズ村活動を継続していくにあたって重要な変化だと思います。

綾喜ハウス2号館完成に向けて、改修工事を継続しています。完成後は、地域の父親たちが土足で気軽に訪れるサロン的な場としていきたいと考えています。

綾喜ハウス1・2号館完成後は、子どもが自由に学ぶと共に父親の学び直しを促進する方法として、「原理原則のものづくり」の力を更に利用していきます。その為には、「プロの知恵を借りる」と共に「先見の明の力を借りる」ということで、先輩世代の方（毎日でもダッズ村に顔を出せる方）との繋がりを広げ、5年後を目途に子どもたちと父親たちが気軽に利用できる環境を整えたいと思います。

更に綾喜ハウス1号館・2号館を拠点にしながら、水を確保する為の井戸堀・太陽光発電システムの設置・トイレの設置・カマドの設置など、「仕事ばかりで遊びを忘れたオヤジたち」の「本気の遊び」を更に強化していきたいと思います。村完成後は、父親の為の子育て支援拠点・子どもたちが様々な「つくる」を通じて自由に学べる場としていきたいと考えています。

「遊び心」を最大限に利用して、最終的に防災拠点を目指していきます。